韓国人学習者における日本語の書記漢語の音韻推測

—Think-aloud 法と Follow-up Interview 法によるケース・スタディー—

鄭　聖美

キーワード：韓国人学習者、母語の影響、音韻推測、推測ストラテジー、推測プロセス

1．はじめに

韓国は現在脱漢字化しつつあり、韓国語は普段ハングルのみで表記される。よって、「韓国人日本語学習者(以下、KL)」の母語による漢字力は個人差が大きく、漢字圏学習者とは言えないほど、漢字力の低い人も少なくない。とはいえ、漢字力の低い KL を非漢字圏学習者として扱うわけにもいかない。韓国語は普段ハングルで書かれるものの、日本語と同じように漢語が多く存在し、KL が日本語の漢語を習得する際に音として覚えている母語の漢語音を利用することは間違いないからである。なかでも、KL の日本語の漢語の「意味」習得における母語の漢語の影響は、安(1999)、小林・李(2001)、邱(2002)などによって既に明らかになったことである。しかし、KL の日本語の漢語の「音韻」習得における母語の漢語と漢字音の影響はまだ究明されていない。それにつき、アンケートを用いて KL の漢字学習ストラテジーを調べた石井(2002)は、KL に韓国語の漢字と日本語の漢字の音を関連つけて覚える傾向があることに気づき、どのように関連つけるのかを質的な研究方法を通して詳しく調べることを促した。そこで本研究では、KL の日本語の漢語の「音韻」習得における母語の漢語と漢字音の影響を明らかにするために、KL が未知の日本語の漢語に遭遇した際、何を手がかりにどのようなストラテジーを用い、いかなるプロセスを経るかを実際の個々の例を通して探索的・解釈的に調べることにした。

2．方法

2.1　調査方法

海保(1990)は漢字を読む過程に「形として認識する過程(以下、字形認識)」と「形にオトを連合する過程(以下、音韻連合)」があると述べた。漢語を読む過程にも字形認識と音韻連合があり、未知語の音韻連合には誤り、ポーズなどが現れると想定できる。よって、日本語の文章の音読というタスクを Think-Aloud(以下、TA)させ、音韻連合に誤り、ポーズなどが現れる箇所について Follow-up Interview(以下、FI)を行うと、未知語における音韻の推測仕方を調べることができる。そこで本研究では、対象者に日本語の文章(付録 A 参照)を与え、日本語で音読しながら思い浮かぶ思考内容を言語制限なしで発話してもらった。ただし、音読の際には読み方ばかりに気遣い、意味や文脈の理解まで至らないこともありう

るので、読み終わったら内容要約のテストがあることを事前に伝えた。その後、音韻連合に誤り、ポーズなどが現れた箇所について対象者に説明を求めた。最後に、タスク文の全ての漢語について、日本語音韻と韓国語音韻が既知であったかを聞いた後、日本語音韻を平仮名で韓国語音韻をハングルで書かせたうえ、内容要約テスト共に各漢語の例文を母語で作らせ、音韻連合と意味アクセスの成功可否を確認した。FI は TA の直後に行った。

2.2 調査対象者

個々の例を探索的・解釈的に調べる本研究は、ミクロなレベルのデータが求められるため、少人数を対象とする。本稿では、対象者 6 人のうち、タスク文を最も理解し、未知語の音韻推測についての報告が最も多い L のデータのみに絞ることにした。L は、韓国の大学で理系専攻を 2 年生まで終え、東京内の日本語学校に在学している 26 才の男性である。来日して 1 年 3 ヶ月が経ち、現在は中級クラスで日本語を学んでいる。調査の 2 ヶ月前に日本語能力試験 2 級に合格し、背景調査での韓国語の漢字力テストでは 4 級[1]に判定された。

2.3 データ分析

録音された TA と FI はすべて文字化され、個々の未知語の音韻推測において何が手がかりとされ、どのようなストラテジーが用いられたが分析された。推測の手がかりとストラテジーの分析は日本語教師経歴 5 年の韓国人 1 名(日本語教育修士号修得)の協力を得、筆者と 2 人で行った。なお、KL が日本語音韻を推測する際に、韓国語音韻が既知であれば、その韓国語音韻を通して日本語音韻を推測しようとすることはすぐ想像できる。よって、本稿では「両言語音韻が共に未知の場合」のみを分析の範囲とする。

3. 結果と考察

調査時間は TA が 20 分、FI が 2 時間半かかった。総 48 語の漢語のうち、両言語での未知語は 20 語と報告された(付録参照)。その中で「韓国語音韻を先に推測し、その韓国語音韻から日本語音韻を推測したケース」が 15 語、「日本語音韻を先に推測し、その日本語音韻から韓国語音韻を推測したケース」が 2 語、「韓国語音韻を先に推測し、日本語音韻の推測をあきらめたケース」が 3 語[2]である。ここでは、各ケースの例[3]をあげ、時間に沿って示したプロトコルをみていきながら、そのストラテジーとプロセスについて考える。

3.1 韓国語音韻から日本語音韻を推測したケース(15 語)

3.1.1 両言語が正しく推測できたケース(8 語)の例 1

---

[1] 韓国語の漢字力テストは、韓国の漢字能力検定試験から抜粋された。3 級に合格すると、日本の常用漢字に当たる「韓国の教育用基礎漢字 1800 字」が読めると、4 級は 750 字〜1000 字が読めると期待される。

[2] 韓国語音韻を先に推測し、日本語音韻の推測をあきらめた 3 語は、条、検討、教諭である。

[3] 本稿の各例において、未知字は四角に囲まれた字、日本語音韻は平仮名、韓国語音韻はローマ字で表した。「…」は 5 秒以内の沈黙を示す。なお、説明の便宜上、プロトコルには時間に沿って番号をつけた。

[例1] 回避（カイヒ、HoePi）

TA) カイ…Gun？ カイグン？ HoeGun?…ううん［沈黙］あぁ、HoePi！これがPiなんだ。カイ…カイ…ヒナン！カイヒ！

(1) この字(回)は知っている字です。3カイ(回)とか4カイ(回)とか…
(2) この字(避)が読めなくて［中略］Gun(群)という字だと思いました。［中略］ほら、動物がいっぱい群れていると…
(3) この字(避)の日本語音はよく分からないですが、韓国語ではこの字(群)をGunと読んだ気がして…
(4) 例えば？［沈黙］Gun…Gun…Gunjung(群衆)とか、Gunjip(群集)とか…SilHeomGun(実験群)？
(5) (それらの単語の漢字は) 覚えていないんですよ。見てもパッと分からないし、勝手に読んだ後に自信ないし…
(6) ただ、ここの部分(辟)がGun(群)という字で見たような気がしただけで…
(7) カイグン？［笑い］あの…この字の日本語が分からないから…日本語で勝手にグンと読んでみたんですよ
(8) ［笑い］韓国語でGunだから…日本語音と韓国語音は似ている時が多いでしょう？
(9) (鄭：それで、知らない日本語音を韓国語音に似ているように発音してみたわけですか？) はい。
(10) この時にはHoeGunがこの字(回避)の韓国語だと思ったから…カイグンって日本語で読んでもどういう意味か分からないし…それで多分韓国語で読んでみたと思います。
(11) 韓国語ではHoeGunという単語はない気がして…それで、HoeGunが間違ったと思いました。
(12) …HoeGunが違うから、この字(避)を他に何と読むか考えました。
(13) うん…Hoeは確かだから…Hoeから始まる単語を探しました。
(14) 例えば、HoeJeon(回転)、HoeSang(回想)、HoeSu(回収)など…
(15) (漢字は) 書けないです。見ても多分最初は読めなくて、ちょっと時間をかけて見れば分かるかも。
(16) 全部、どこかで見た漢字ですから。見たことのない漢字は山をはるしかないでしょう。
(17) 色々単語を言ってみて、内容に一番合うのを当ててみるんです。
(18) 内容的にトラブルを嫌がる、トラブルを避けるという意味にならなくちゃと思いましたね。
(19) とりあえず、この場合には、まずHoeから始まる単語をいっぱい探しましたね。そのうち、HoePi(回避)が浮かんだ時に、これだ！と思いました。他の単語は、思い浮かんでも、内容に合わないから…
(20) HoePi(回避)がこの文の…ここの内容に合うから…
(21) HoePi(回避)のPiだから韓国語音でしょう。
(22) (鄭：あぁ…HoePi(回避)という単語からこの字(避)の韓国語音がPiだと分かったということですか。) はい。
(23) (「カイ…ヒ」って言っているのは) 日本語音です。
(24) この字がPi(避)でしょう？PiNan(避難)のPi。［中略］PiNan(避難)は日本語でヒナンだから…それで、この字(避)の日本語音がヒかなぁと思いました。その時、この字(避)、日本語のヒナン(避難)を勉強する時に見た漢字だと思い出しました。［中略］今でも、(この字(避)がヒナンやPiNanの字なのが) 正しいかどうかは分からないんです。
(25) この字(避)が韓国語でPiで、ヒナンを覚える時にあった漢字のようだし…それで、ヒかなぁと思ったんです。

「回」の両言語音が既知で「避」の両言語音が未知であるLはまず(2～6)で、「避」と「群」の字形を混同し、「避」を「群」の韓国語音であるGunと読んだ。その後(7～9)で、韓国語音韻から日本語音韻を推測する仕方を取り、韓国語音韻Gunを手がかりに「避」の日本語音をグンと推測した。そこには、韓国語の漢語・漢字音と日本語の漢語・漢字音は発音上で似ているという先入観から、「未知字の韓国語音を意図的に真似た発音を、その日本語音として当てはめる(以下、韓国語音化)」ストラテジーが用いられた。しかし、Lからのデータにおいてこのストラテジーは5回[4]報告され、成功例は1回しかない。よって、このストラテジーは実際の漢語・漢字音に基づく根拠なく、主観的・即座的判断で行われるため、失敗率が高いと考えられる。

ところが、(10～11)で、幸いに誤りに気づき、推測された「避」の両言語音を放棄した。そこには、「回避」の韓国語音韻として推測されたHoeGunが韓国語では非単語だと判断したように、「推測した韓国語音韻が韓国語の心内辞書にある単語かを確認する(以下、韓

[4] 避：Gun＝グン(×)、針：Chim＝チン(×)、止：Ji＝ジ(×)、徒：Do＝ド(×)、指：Ji＝ジ(○)

国語の心内辞書の確認)」ストラテジーが用いられた。ここで注目したいのは、(7～9)で既に日本語音韻も推測されたにもかかわらず、(10～11)では語彙判断のために韓国語音韻にスイッチングしたことである。この例以外にも語彙判断は韓国語音韻で行われる例が多く報告されたことから、Lにとって語彙判断は韓国語のほうが楽であると分かる。

その後(12～16)では、「避」の韓国語音の再推測を試みた。そこには、「回」の韓国語音 Hoe から始まる韓国語の単語を検索したように、「先行・後続する字の韓国語音を頼りに韓国語の心内辞書を調べ、未知字の韓国語音として当てはめる(以下、韓国語による先後字頼りの検索)」ストラテジーが用いられた。しかし、ストラテジーは、HoeJeon(回転)、HoeSang(回想)、HoeSu(回収)などは放棄し、HoePi(回避)を選択した(17～22)からも分るように、「漢語の検索の際に文脈や文の内容にふさわしい漢語を選択し、未知語に当てはめる(以下、文脈頼りの検索)」ストラテジーの助けを得る場合が多い。この例以外にも「韓国語による先後字頼りの検索」は「文脈頼りの検索」と同時に用いられた例が多い。

その後(23～25)で、「避」の日本語音の再推測を試みた。そこには、「避」の韓国語音 Pi を手がかりに、音として既知の「PiNan(避難)＝ヒナン」という知識から「避」の日本語音をヒと再推測したように、「音として既知の日本語の漢語から単漢字の日本語音を調べ、未知字の日本語音として当てはめる(以下、音としての日本語の漢語からの検索)」ストラテジーが用いられた。Lは 以上のように「回避」の両言語の音韻推測に成功した。

3.1.2 両言語が正しく推測できたケース(8語)の例2

[例2] 児童 (ジドウ、ADong)

TA)WonSaeng？…Won？…あ、WonA！…Won？…ううん…他のなになにの教育に…うん…こども… A？ A、そうだ、YukA うん。[沈黙] …こども… A…ADong！ [沈黙] Dong…ドウブツ…イクジ、ジ…ジドウ？うん、ジドウ！

(1) この単語、最初は本当に全然わからなかった…
(2) (最初、「WonSaeng」と言っているのは) 家の近くの幼稚園でこの字(児)が書いてあったような気がして。
(3) 新しい子供を集めるという意味でね。それで、最初は WonSaeng(園生)かなぁと思ったんですよ。
(4) もちろん (韓国語の単語です)。だけど、Saeng(生)はこの字(児)じゃないのにすぐ気がついて。
(5) WonSaeng(園生)での Saeng じゃないから、Won かなぁと思ったんですけど、[中略] 自身がなかったんですよ。
(6) とりあえず、Won が入る、子供という意味の単語を考えたら、WonA(園児)に思いついたんです。
(7) 幼稚園でこの字(児)を見たから、子供という意味の単語を探した。WonSaeng(園生)を WonA(園児)とも言うし…
(8) 自身がないから、(文章を読んで) この単語(児童)が内容上で子供の意味かどうか確認してみたんです。
(9) 子供という意味は正しいけど、HakGyo(学校)、GyoYuk(教育)という単語を見てやはり WonA(園児)は違う気がした。
(10) WonA(園児)は幼稚園の子供でしょう。HakGyo(学校)の子供は WonA(園児)とは言わないから。
(11) この字(児)、WonA(園児)の Won じゃないから、A かなぁと思った。
(12) この字(児)が A だと思ったら、何かこの字(児)、YukA(育児)で見たことを思い出しました。確かにこの字は YukA(育児)にあった字です。YukA(育児)の Yuk は GyoYuk(教育)の Yuk だから、これ(児)は A のはずです。
(13) この字(児)が A だと思って、A から始まる子供という意味の単語を考えたら、ADong(児童)が浮かびあがった。
(14) 正しいかどうか自身はないけど、たぶん合っていると思います。
(15) (ADong(児童)の) 字は分りません。だだ、A(児)だけは見たことがある気はしました。
(16) この字(童)が韓国語で Dong と読むから、日本語ではドウと読むかなぁと思いました。
(17) 韓国語の Dong は日本語ではドウと発音すると思います。DongMul(動物)はドウブツでしょう。え…と…UnDong(運動)はウンドウで…JaDongCha(自動車)はジドウシャだし…だから、これ(童)も多分ドウだろと思いました。
(18) ドウブツなどのドウはこの字(童)じゃないんです。ウゴク(動く)で使う漢字でしょう？
(19) この字(児)がある単語で…YukA(育児)って日本語でイクジというのをテレビでよく聞いているから…
(20) (育児という漢字が) 読めるかどうかは分かりません。とりあえず、YukA(育児)はイクジだということは分かる。

(21) イクジのイクはGyoYuk(教育)のYukと同じ字だから、イクジのジがこの字(児)の日本語音だろうと思って
(22) ジとドウを合わせて、ジドウと言ってみたんですね。そうしたら、結構日本語らしいと思って…
(23) [笑い] 私は、どこかで聞いたことがあるような気がしたら、日本語らしいと判断するんですよ。

「児童」の全構成字の両言語音韻が未知であるLはまず(2～7)で、「児」に関するうろ覚えの記憶を手がかりに「児」の韓国語音の推測を試みた。「児」という字形を子供関係の単語で見たことを思い出し、最初は「児童」の韓国語音韻をWonSaeng(園生)と推測したが、すぐSaengの字が「児」の字形と異なることに気づき、Wonから始まる他の子供関係の単語を探り、「児童」の韓国語音をWonA(園児)と推測した。そこには、WonSaeng(園生)やWonA(園児)といった「音として既知の韓国語の漢語から単漢字の韓国語音を調べ、未知字の韓国語音として当てはめる(以下、音として既知の韓国語の漢語からの検索)」ストラテジーが用いられた。

ところが、(8～10)で、推測された「児」の韓国語音を文脈を手がかりに放棄した。そこには、WonA(園児)をタスク文に置き入れてWonA(園児)が文脈にふさわしくないと判断し、WonA(園児)を放棄したように、「推測した漢語が文脈や文の内容にふさわしいかを確認し、放棄か選択する(以下、文脈の確認)」ストラテジーが用いられた。

その後Lは(11～12)で、「音としての韓国語の漢語からの検索」を用い、「児」の韓国語音をAと当てはめた後、(13～15)で「韓国語による先後字頼りの検索」と「文脈頼りの検索」を用い、「児童」の韓国語音韻をADong(児童)と推測した。

やっと「児童」の韓国語音韻の推測に成功したLは(16～18)で、音として既知の「DongMul(動物)=ドウブツ」という漢語を根拠に「韓国語音Dong=日本語音ドウ」というルールを探し、「童」の日本語音にドウを当てはめた。そこには、「単漢字の韓国語音に対応する日本語音を、未知字の日本語音として当てはめる(以下、韓国語音のルール化)」ストラテジーが用いられ、韓国語音韻から日本語音韻を推測する仕方が取られた。Lからのデータで、このストラテジーは7回[5]報告され、成功例は5回である。よって、このストラテジーは、実際の漢語・漢字音を根拠とするため、韓国語音化に比べ、成功率が高いと考えられる。しかし、このストラテジーでは、根拠として提示された単漢字(動、明、的…)と、日本語音の推測を目標とする単漢字(童、命、適…)の間には、字形上の共通点がない。ルール化の根拠が字形ではなく、韓国語音韻を基準に選ばれるからだと考えられる。そのため、「登校」のように、同じ韓国語音を持ち、異なる日本語音を持つ漢字群(例：校、教)においては誤りやすいと考えられる。また、ガッコウ(学校)という日本語が既知でも、「登校」をトウキョウと読んだことは、「学校」という漢語を字形と離れて、「韓国語音=日本語音」で単語として丸覚えしたことを示すと考えられる。

その後Lは(19～21)で、「音として既知の日本語の漢語からの検索」を用い、「児」の日

[5] 童：Dong=ドウ：動物→○、命：Myeong=メイ：説明→○、適：Jeok=テキ：目的→○、停：Jeong=テイ：定食→○、摘：Jeok=テキ：目的→○、 妨：Bang=ホウ：方向→×、校：Gyo=キョウ：教育→×

本語音をジと推測した。やっと「児」の日本語音と「童」の日本語音の推測に成功したLは(22～23)で、ジとドウを合わせたジドウが今まで耳にしたことがあると判断し、「児童」の日本語音としてジドウを選択した。そこには、「推測した日本語音韻が日本語の心内辞書にある単語かを確認する(以下、日本語の心内辞書の確認)」ストラテジーが用いられた。

以上のような過程を経て、Lは「児童」の両言語の音韻推測に成功した。

3.1.3 韓国語のみが正しく推測できたケース(6語)の例

[例3] 妨害（ボウガイ、BangHae）

TA) …うん…Hae…ヒガイ、ガイ…うん…Bang? BangHae？…授業 BangHae…イジメといった問題行動を…うん、BangHae！
[沈黙] Bang…ホウコウ…ホウ！ホウガイ？…ホウガイ。

(1) これ(害)はもう知っているんだけど、最初はこれ(妨)がよく分からなかったんですね。
(2) PiHae(被害)の Hae でしょう？ PiHae(被害)の日本語がヒガイだと習う時に覚えた字です。
(3) (この字(妨)は) 初めて見た字なんで、知らないと思ったけど…よく見たら、ここが見えたので［中略］これ、ここの部分(方)。これは（韓国語で）Bang でしょう。
(4) ［笑い］これ(方)、日本語でよく見る字だから、易しい字ですよ。
(5) この部分(方)が Bang だから、この字(妨)も Bang だろうと思って…
(6) (鄭：同じ部分を持つ漢字は、同じく発音されるということですか？) え、漢字は大体そうじゃないですか？今まで日本語を勉強しながら、そういう場合を多く見てきたんですけどね。
(7) (タスク文の一部をもう一回読んでいるのは) これ(妨)が Bang だから、これ(妨害)が BangHae になるので…内容的に BangHae(妨害)でいいのか確かめてみたんですよ。
(8) (鄭：面白いですね、漢語は韓国語で読んでいますね。ほかは日本語で読んでいるのに…) ［笑い］私、日本語を読んでも、何と読むかはっきり分からない漢字が出ると、結構、韓国語で読んでいるみたいです。
(9) (鄭：韓国語で何と読むか分からない漢字でも？) え。大体…そのほうが、内容が分かるし、楽だし…
(10) (「Bang…ホウコウ…ホウ！」と言っているのは) この Bang(方)があるから、これ(妨)も Bang だろうと思ったので… Bang は日本語でホウと言う場合が多いから…
(11) (韓国語の Bang は日本語でホウと発音される。) たとえば、ホウコウ(方向)とか…ホウホウ(方法)とか…

「害」の両言語音が既知で「妨」の両言語音が未知であるLはまず(3～6)で、「妨」の字形を手がかりに「妨」の韓国語音の推測を試みた。そこには、「妨」の字形から「方」を見つけ、「方」の韓国語音 Bang を「妨」の韓国語音として当てたように、同じ部分を持つ漢字は同じく発音されるという知識から、「漢字の部品を分析し、その部品の音韻を未知字の音として当てはめる(以下、部品分析)」ストラテジーが用いられた。Lからのデータで「部品分析」は5回[6]報告されたが、部品分析は日本語で行われることなく、全てが韓国語による部品分析である。そのうち、音符が分析され例は4回、義符が分析され例は1回である。

その後(7～9)で、「文脈の確認」を用い、「妨害」の韓国語音韻を BangHae と確かめた後、(10～11)で、「妨」の韓国語音 Bang を手がかりに「妨」の日本語音をホウと推測した。そこには、「妨：Bang＝ホウ：方向」という「韓国語音のルール化」が用いられ、<u>韓国語音韻から日本語音韻を推測する仕方</u>が取られた。しかし、「妨：Bang＝ホウ：方向」という韓国語音のルール化は誤りであり、結局、Lはこのストラテジーによって「妨害」の日本語音韻の推測に失敗した。この例からも分かるように、「同じ音符と同じ漢字音を持ち、

[6] 妨(Bang)から方(Bang)を分析、爆(Pok)から暴(Pok)を分析、校(Gyo)から交(Gyo)を分析、徒(Do)から走(Ju)を分析、針(Chim)から金(Geum)を分析

日本語音が異なる漢字群(例：妨、方)」においては日本語音韻の推測に誤りやすいと考えられる。以上のような過程を経て、Lは「妨害」の韓国語音韻の推測に成功し、日本語音韻の推測に失敗した。

3.1.4 両言語が正しく推測できなかったケース(1語)の例

[例4] 喫煙 (キツエン、KkigYeon)

TA) ケムリ、Yeon…GeumYeon? …HeubYeon? [沈黙] PongNyeok や何とか Yeon など…うん…イジメといった問題行動を…問題行動？HeubYeon？…ううん、GeumYeon…GeumYeon、問題行動？…キンエン… [沈黙] HeubYeon？…分からない。

(1) [笑い] 本当にびっくりしました、この字(喫)を見て、最初は。[中略] 全然見たことがない… [笑い]
(2) (Yeon と言ったのは) もちろん韓国語。日本語では Yeon という発音はないでしょう。日本語だとエンかなぁ。
(3) この字(煙)ね、習ったんですよ、日本語の時間に。日本語でケムリだと。知っている字。
(4) ケムリは韓国語では YeonGi でしょう。GeumYeon(禁煙)とか、HeubYeon(吸煙)とかの…
(5) この字(喫)が何だろうか分からないので、とりあえず、Yeon の含む単語を言ってみたんですね。
(6) GeumYeon(禁煙)と HeubYeon(吸煙)は、何だかこの字(喫)と異なる気がして…
(7) (GeumYeon(禁煙)の Geum と HeubYeon(吸煙)の Heub をどう書くかは) 分からないけど、たぶん読めると思います。
(8) (鄭：それで、それらの字(禁、吸)がこの字(喫)とは異なると思えたんですね？) はい。
(9) (文章をもう一度読んでいるのは) Yeon(煙)の含む単語は GeumYeon(禁煙)と HeubYeon(吸煙)しか思い浮かばなかったので、その中でどっちが内容に合うか決めるために…
(10) ここで問題行動と言っているから、内容的には HeubYeon(吸煙)が正しいですけど…
(11) だけど、この字(喫)、どうも HeubYeon(吸煙)の字じゃないんだよね…どちっかというと、禁煙に似ているかなぁ
(12) これ(喫煙)は HeubYeon(吸煙)とは字が違うから、また GeumYeon(禁煙)かなぁと迷っちゃっていますね。[笑い]
(13) 日本語の時間に GeumJi(禁止)を習ったんですけど…Geum(禁)はこれ(喫)と似ているような気もするし…
(14) とりあえず、いったん、GeumYeon(禁煙)だと決めて…GeumYeon(禁煙)は日本語でキンエンだから…
(15) (GeumYeon(禁煙)が日本語でキンエンなのは知っている) レストランでいつも禁煙席ですかと聞かれるから…
(16) キンエン(禁煙)を最初レストランで聞いた時、キンエン(禁煙)のキンがキンシ(禁止)のキンだとすぐ推測できたから、キンエン(禁煙)がすぐ覚えられたんですね。
(17) どうも内容的に GeumYeon(禁煙)は違うから…やはり HeubYeon(吸煙)かなぁと迷って…結局、あきらめました。

「煙」の両言語音が既知で「喫」の両言語音が未知であるLはまず(5～10)で、「韓国語による先後字頼りの検索」を用い、GeumYeon(禁煙)と HeubYeon(吸煙)を探した後、「文脈頼りの検索」を用い、「喫煙」の韓国語音韻として HeubYeon(吸煙)を当てはめた。ところが、(11～14)では、字形上で「喫」と「禁」が似ていると混同し、「喫煙」の韓国語音韻を GeumYeon(禁煙)に変えた。「喫」の韓国語音をいったん Geum(禁)と決めたLは(14～16)で、先に喫煙(GeumYeon)を韓国語音韻で読み、字形とは別に音として既知の「GeumYeon(禁煙)＝キンエン」という知識から、「喫煙」の日本語音韻をキンエン(禁煙)と当てはめ、韓国語音韻から日本語音韻を推測する仕方を取った。そこには、「未知語の韓国語音韻に対応する、音として既知の日本語の漢語を、未知語の日本語音韻として当てはめる(以下、韓国語の漢語のルール化)」ストラテジーが用いられた。このストラテジーには、日本語音韻の推測に日本語の漢語のみが利用されるのではなく、字形と日本語音韻の間に普段ハングルで表記される「音としての韓国語の漢語」が介入されることが分かる。Lからのデータでこのストラテジーは5回[7]報告され、喫煙の以外の例は日本語音韻の推測

[7] 喫煙：GeumYeon＝キンエン、文部省：MunBuSeong＝モンブショウ、処分：Cheobun＝ショブン、暴力：Poknyeok＝ボウリョク、改正：GaeJeong＝カイセイ

に成功した。そのうち、「文部省」は韓国語の漢語でもないのに、「MunBuSeong＝モンブショウ」のように、このストラテジーが用いられ、日本語の漢語を字形と別に韓国語音韻を媒介として記憶しようとする傾向の可能性が示された。ところが、(17)で、「文脈の確認」を用い、推測された「喫煙」の両言語音韻を放棄した。やはり内容上で GeumYeon(禁煙)は違うと判断し、最終的には「喫煙」の両言語音韻をあきらめてしまった。しかし、L は FI に行われたテストで、「喫煙」の意味を「タバコを吸う」と正しく書いたので、音韻推測には失敗しても意味には正しくアクセスしたと判断される。

以上のような過程を経て、L は「喫煙」の両言語音韻の推測に失敗した。失敗の理由としては、現在の韓国語では「KkigYeon(喫煙)」はあまり使われず、HeubYeon(吸煙)が使われるため、L の韓国語の心内辞書には「KkigYeon(喫煙)」がないからだと考えられる。よって、「喫煙」の韓国語音韻として GeumYeon(禁煙)と HeubYeon(吸煙)しか検索できなかった L は、字形上の手がかりと文脈上の手がかりがかち合うため、韓国語の音韻推測に戸惑ってしまい、日本語の音韻推測にも失敗したと考えられる。

3.2 日本語音韻から韓国語音韻を推測したケース(2 語)

3.2.1 両言語が正しく推測できたケース(1 語)の例

[例 5] 義務 (ギム、UiMu)

TA) うん…ギ、ギ…うん…ギノウ…ギム…ギム？…うん、UiMuGyoYuk(義務教育)？うん、UiMu！…ギム。

(1) (最初、「うん…ギ、ギ」と言っているのは) この字(義)のことです。
(2) (この字(義)を) 日本語で (読んでいます。) …この字(義)、知っていますよ。カイギ(会議)のギでしょう？
(3) これ(義)がギなのは知っているけど、これ(務)は (日本語でも韓国語でも) 何と読むか分からないから…
(4) これ(義)がギだから…ギで始まる (日本語の) 単語を言ってみたんですね。(それで、ギノウとギムを言った。)
(5) (ギノウとギムの漢字は) 分からないと思います。ただ、多く耳にした単語だから、覚えているだけです。
(6) ギノウ(技能)は…GiSul(技術)という意味の…UnJeonGiNeung(運転技能)とか…
(7) ギム(義務)は…JaYu(自由)と UiMu(義務)ということの UiMu(義務)で…
(8) 内容的にギノウ(技能)より、ギム(義務)の方が合っているような気がして…
(9) それで、文章をもう一回見たら、UiMuGyoYuk(義務教育)と書いてあったから、UiMu(義務)が正しいと思いました。
(10) UiMu(義務)は日本語でギム(義務)と言うのをよく耳にして、覚えている。
(11) (鄭：つまり、UiMu(義務)はギム(義務)だという風に、すでに覚えているということですね？) はい。
(12) (鄭：でも、面白いですね。UiMu(義務)をギム(義務)と、ずっと日本語で言っていたのに、文章をもう一回読みながら内容を確認する時には、UiMu(義務)と急に韓国語で読みましたよね。) え？ [笑い] はい。
(13) (鄭：ご自分も気がつきましたか？) いいえ。…でも、私、内容を考える時には結構韓国語に変わるんですよ。

「義務」の全構成字の両言語音韻が未知である L はまず(1～2)で、「義」の字形を「議」と混同し、「義」の日本語音をギ(議)と推測したが、幸いに「義」と「議」の日本語音が同じで、「義」の音韻推測には成功した。L からのデータで未知語に遭遇した際には通常、韓国語の音韻推測が先に試みられたが、「義務」の場合に日本語の音韻推測が先に試みられたことは例外的である。

「義」の日本語音を推測した後には(3～7)で、「義」の日本語音ギを手がかりにギから始まる日本語の単語を探り、ギノウ(技能)とギム(義務)を検索した。そこには、「先行・後続

する字の日本語音を頼りに日本語の心内辞書を調べ、未知字の日本語音として当てはめる(以下、日本語による先後字頼りの検索)」ストラテジーが用いられた。Lからのデータにおいて、先後字頼りの検索は通常、韓国語によって韓国語の漢語が検索されたが、「義務」の場合のように日本語によって日本語の漢語が検索されたことは例外的である。

ギノウ(技能)とギム(義務)を検索した後には(8～9)で、「文脈の確認」を用い、「技能」より「義務」のほうが文脈にふさわしいと判断し、「技能」を放棄し、「義務」を選択した。ただし、(10～11)からみると、「技能」と「義務」をタスク文に置きいれる前に、音として既知の「ギノウ(技能)＝GiNeung」や「ギム(義務)＝UiMu」という知識を手がかりに、ギノウ(技能)とギム(義務)を GiNeung(技能)と UiMu(義務)という韓国語音韻にスイッチングしたと考えられる。そこには、日本語音韻から韓国語音韻を推測する仕方が取られ、「未知語の日本語音韻に対応する、音として既知の韓国語の漢語を、未知語の韓国語音韻として当てはめる(以下、日本語の漢語のルール化)」ストラテジーが用いられた。Lからのデータで漢語のルール化は、韓国語音韻から日本語音韻を推測する「韓国語の漢語のルール化」が主に用いられたが、「義務」の場合には、日本語音韻から韓国語音韻を推測する「日本語の漢語のルール化 」が用いられた。

以上のような過程を経て、Lは「義務」の両言語音韻の推測に成功した。この「義務」の例は、2 つしかない「日本語音韻から韓国語音韻を推測したケース」の1つであり、他の報告例と異なる例外的な推測仕方が多く報告された。

3.2.2 韓国語のみが正しく推測できたケース(1語)の例

[例 6] 慎重 (シンチョウ、SinJung)

TA) うん？Gu?…GuJung? [沈黙] シャシン！シン？うん…Jin、JinJung？うん…Jin …Sin？SinJung?…あぁ、SinJung！…ジュウダイ…シンジュウ…うん、シンジュウ。

(1) [笑い] この字(慎)ね、最初は Gu(具)だと思いました。[中略] ほら、GaGu(家具)の Gu。
(2) だって、GuJung(具重)という韓国語はないでしょう?
(3) これ(重)は Jung で確かだから。重いという意味の。[中略] でも、GuJung(具重)という単語はないですからね。
(4) いきなり、この字(慎)が (日本語の) シャシン(写真)のシンだと気がつきました。
(5) これ(慎)が日本語でシンだから、韓国語では Jin と読むなぁと思って…
(6) 日本語でシンと発音するのは、韓国語では大体 Jin と発音する場合が多いから…
(7) 例えば、シャシン(写真)は SaJin だし…うん…シンガク(進学)は JinHak だし…
(8) だけど、JinJung(真重)って、またおかしいなぁと思って…
(9) JinJung(真重)って聞いたことないし…この字(慎)、Jin じゃないかもと思いました。
(10) JinJung(真重)じゃないかもと思った時に、急に SinJung(慎重)かもと思いましたよ。
(11) だって、同じく Jung(重)で終わるし、Jin と Sin は発音が似ているし…ぱっと Sin に思いつきました。
(12) SinJung(慎重)って言葉になれるし [中略] (韓国語で) SinJung(慎重)に考えるとか言うでしょう？
(13) この Jung(重)を日本語で読もうとしている。[中略] 大事という意味のジュウダイ(重大)にこの字(重)がある。
(14) ニジュウ(二重)、サンジュウ(三重)の時にもこの字(重)があるし…

「重」の韓国語音が既知で「慎」の両言語音が未知であるLはまず(1～2)で、「慎」の字形を韓国語の GaGu(家具)の「具」と混同し、「慎重」を GuJung(具重)と読んだが、その

後(2～3)で、「韓国語の心内辞書の確認」を用い、GuJung(具重)を放棄した。その後(4)で、「慎」の字形を日本語のシャシン(写真)の「真」と混同し、「慎」の日本語音をシンと推測した。このように(1～4)にかけては、いきなり、Gu(具)からシン(真)と、韓国語から日本語へのスイッチングが見られる。

「慎」の日本語音を推測した後は(5～7)で、日本語音韻から韓国語音韻を推測する仕方を取り、「慎」の日本語音シンを手がかりに「慎」の韓国語音の推測を試みた。すなわち、音として既知の「シャシン= SaJin(写真)」の漢語を根拠に「日本語音シン＝韓国語音 Jin」というルールを探し、「慎」の韓国語音に Jin と当てはめた。そこには、「単漢字の日本語音に対応する韓国語音を、未知字の韓国語音として当てはめる(以下、日本語音のルール化)」ストラテジーが用いられた。このストラテジーは日本語音韻から韓国語音韻を推測する仕方の１つであり、L からのデータでは「慎重」の場合のみに報告された。ところが、「慎」と「真」は同じ音符と同じ日本語音を持つが、韓国語音は異なるため、「真」の日本語音を根拠とした日本語音のルール化によって「慎」の韓国語音を推測した結果、誤った韓国語音が推測された。

しかし、「慎」の韓国語音を Jin と誤った L は幸いに(8～9)で、「韓国語の心内辞書の確認」を用い、JinJung(真＋重)が韓国語の単語ではないと判断し、Jin(真)を放棄した。L からのデータで、韓国語音韻が推測された後には通常、確認が行われたので、このように「同じ音符と同じ日本語音を持ち、異なる韓国語音を持つ漢字群における韓国語音韻の推測」は、3.1.3 に述べた「同じ音符と同じ韓国語音を持ち、異なる日本語音を持つ漢字群(例：妨、方)における日本語音韻の推測」に比べ、誤りに気づきやすいと考えられる。

その後 L は(10～12)で、「韓国語による後続字頼りの検索」と「心内辞書の確認」を用い、「慎」の韓国語音の再推測を試み、「慎」の韓国語音を Sin と決めた。その後(13～14)で、「音として既知の日本語の漢語からの検索」を用い、ジュウダイ(重大)やニジュウ(二重)などの日本語の漢語から、「重」の日本語音をジュウと推測してしまった。この後、「日本語の心内辞書の確認」は行われなかったため、誤りは修正されなかった。

L は、以上のような過程を経て、2 つしかない「日本語音韻から韓国語音韻を推測したケース」の１例である「慎重」の音韻推測において、韓国語音韻の推測に成功し、日本語音韻の推測に失敗した。ところが、両言語音韻の未知字である「慎」のみを考えると両言語音の推測に成功したとも言えるだろう。

４．推測ストラテジーとプロセス

本調査は日本語文の音読というタスクを与え、両言語音韻が未知の場合における日本語音韻の推測ストラテジーを調べるものである。ところが、３節の例からも分かるように、日本語音韻の推測を目標としているにもかかわらず、日本語音韻の推測ストラテジーだけではなく、韓国語音韻の推測ストラテジーも数多く用いられている。それは、両言語音韻の未知語の場合は字形から確かな音韻情報を得ることができないため、日韓言語の近い「語

彙間距離[8]」を利用し、3節の例から分かるように、まず未知語に当たる「音として既知の韓国語の漢語」を検索し、その韓国語の漢語の音韻を手がかりに日本語の漢語の音韻を探ろうとするからだと考えられる。

つまり、ある未知語の日本語音韻を選択・放棄するまでの大きなプロセスがあり、その大きなプロセスを構成するサブ・プロセスがいくつかあるとしたら、本調査で報告された韓国語音韻の推測ストラテジーはそのサブ・プロセスの1つとして考えられるだろう。4節では、Lからのデータ(20語)を基にそのようなサブ・プロセスについて考える。

3節に挙げた例からも分かるように、本調査で報告された音韻推測ストラテジーには、「字形に日本語音韻を当てるもの(以下、CJルート)」、「字形に韓国語音韻を当てるもの(以下、CKルート)」、「韓国語音韻から日本語音韻を推測するもの(以下、KJルート)」、「日本語音韻から韓国語音韻を推測するもの(以下、JKルート)」がある。CJルートには音として既知の日本語の漢語からの検索、日本語による先後字頼りの検索、日本語の心内辞書の確認が属し、CKルートには部品分析、音として既知の韓国語の漢語からの検索、韓国語による先後字頼りの検索、韓国語の心内辞書の確認、文脈頼りの検索が属する。また、KJルートには韓国語の漢語のルール化、韓国語音のルール化、韓国語音化が属し、JKルートには日本語の漢語のルール化、日本語音のルール化が属する。

この4つのうち、CJルートとKJルートは日本語音韻を推測するためのサブ・プロセスであり、CKルートとJKルートは韓国語音韻を推測するためのサブ・プロセスである。そして、この4つの推測ルートが組み合わせられ、未知語の日本語音韻を推測する大きなプロセスを構成すると想定できる。例えば、「日本語音韻を推測してから、その日本語音韻を通して韓国語音韻を推測するプロセス」はCJルートとJKルートからなり、「韓国語音韻を推測してから、その韓国語音韻を通して日本語音韻を推測するプロセス」はCKルートとKJルートからなると言える。また、「日本語音韻を推測した後、それと別に韓国語音韻を推測するプロセス」はCJルートとCKルートからなり、「韓国語音韻を推測した後、それと別に日本語音韻を推測するプロセス」はCKルートとCJルートからなると言える。

なお、本調査で報告された音韻推測ストラテジーは「何を手がかりにしているか」によって「日本語情報、韓国語情報、字形情報、文脈情報」[9]に分類できる。各ストラテジーが何を手がかりとするかは3節の各例を通して説明してある。以上を【表1】にまとめた。

---

[8] カイザー(2000)は2つの言語を語彙レベルで比較するには「文字間距離(orthographic distance：Koda1966)」以外、同起源の語彙・形態素がどの程度存在するか、外来語をどの程度共有しているかなどが考えられると述べた。本研究ではカイザーに倣い、L1とL2の語彙が同起源の語彙・形態素、外来語を共有する程度を「語彙間距離」とする。

[9] 本調査で推測の手がかりとなった情報(以下、推測情報)は、漢字・漢語の字形・音韻・意味という3要因からみると、「字形、意味、韓国語音韻、日本語音韻」に分類できる。ただし，対象者の報告をデータとする本研究では、対象者の認識上で明らかに字形や意味が関わっている「部品分析」や「文脈や文の内容」に結びつく情報以外は、字形や意味が関わったかどうかを判断しにくい限界がある。よって、本研究では、部品分析に結びついた情報を「字形情報」に、文脈や文の内容に結びついた情報を「文脈情報」に、字形や意味の介入を判断しにくく手掛かりとなった音韻が韓国語なら「韓国情報」に、字形や意味の介入を判断しにくく手掛かりとなった音韻が日本語なら「日本語情報」に分類した。

【表 1】音韻推測のサブ・プロセスと音韻推測のストラテジー

			ストラテジー	報告数[10]
日本語音韻の推測	CJ	日本語	①音として既知の日本語の漢語からの検索：音として覚えていた日本語の漢語から単漢字の日本語音を調べ、未知字の日本語音として当てはめる	6回
			②日本語による先後字頼りの検索：先行・後続する字の日本語音を頼りに日本語の心内辞書を調べ、未知字の日本語音として当てはめる	1回
			③日本語の心内辞書の確認：推測した日本語音韻が日本語の心内辞書にある単語かを確認する	3回
	KJ	韓国語	④韓国語の漢語のルール化：未知語の韓国語音韻に対応する、音として既知の日本語の漢語を、未知語の日本語音韻として当てはめる	4回
			⑤韓国語音のルール化：単漢字の韓国語音に対応する日本語音を、未知字の日本語音として当てはめる	8回
			⑥韓国語音化：単漢字の韓国語音を真似た発音を、未知字の日本語音として当てはめる	5回
韓国語音韻の推測	CK	字形	⑦部品分析：漢字の部品を分析し、その部品の音韻を未知字の音として当てはめる	5回
		韓国語	⑧音として既知の韓国語の漢語からの検索：音として覚えていた韓国語の漢語から単漢字の韓国語音を調べ、未知字の韓国語音として当てはめる	8回
			⑨韓国語による先後字頼りの検索：先行・後続する字の韓国語音を頼りに韓国語の心内辞書を調べ、未知字の韓国語音として当てはめる	12回
			⑩韓国語の心内辞書の確認：推測した韓国語音韻が韓国語の心内辞書にある単語かを確認する	11 回
		文脈	⑪文脈頼りの検索：文脈や文の内容にふさわしい漢語を探し、未知語に当てはめる	7回
			⑫文脈の確認：推測した漢語が文脈や文の内容にふさわしいかを確認する	12回
	JK	日本語	⑬日本語の漢語のルール化：未知語の日本語音韻に対応する、音として既知の韓国語の漢語を、未知語の韓国語音韻として当てはめる	1回
			⑭日本語音のルール化：単漢字の日本語音に対応する韓国語音を、未知字の韓国語音として当てはめる	1回

【表 1】と実際の報告例からは、以下のことが分かる。

（1）日本語音韻の推測には計 27 回のストラテジーが、韓国語音韻の推測には計 57 回のストラテジーが報告された。つまり、日本語音韻の推測より、韓国語音韻の推測のほうに、数多いストラテジーが用いられた。

（2）日本語音韻の推測には日本語情報と韓国語情報のみが報告されたが、韓国語音韻の推測には日本語情報と韓国語情報のみならず、字形情報と文脈情報も報告された。つまり、字形情報と文脈情報は韓国語音韻の推測のみに報告された。よって、韓国語音韻の推測には字形情報、文脈情報が明らかに影響していることが示された。実際の報告例においても、「回避」などの例のように「韓国語による先後字頼りの検索（韓国語情報）」は「韓国語の心内辞書の確認（文脈情報）」と同時に行われる場合が多く観察できる。

（3）韓国語音韻の推測における推測情報の割合は韓国語情報（約 35.1%）、文脈情報(約

10 ストラテジーの報告数を数える際には、ある 1 つの未知語につき、同じストラテジーが用いられても、異なる音韻が連合されると 1 回と数えられた。例えば、「例 2（児童）」の音韻推測において、「児童」に WonSaeng（園生）が連合された時に⑧「音として既知の韓国語の漢語からの検索」を 1 回と数え、また「児童」に WonA（園児）が連合された時に⑧「音として既知の韓国語の漢語からの検索」をもう 1 回と数えた。

33.3%)、字形情報(約 8.8%)、日本語情報(約 3.5%)の順序であり、日本語音韻の推測における推測情報の割合は韓国語情報(約 63.0%)、日本語情報(約 37.0%)の順序である。つまり、韓国語音韻の推測においては日本語情報の割合が一番低い反面、日本語音韻の推測においては韓国語情報の割合が一番高い。このように、両言語音韻の推測において韓国語情報の報告が一番多いことは、字形情報から直接音韻を推測することができず、字形に音韻を当てる際に韓国語情報で補おうとしたからだと考えられる。

(4) 各推測ルートのそれぞれには「検索－確認－修正－選択・放棄」という推測段階があると想定できるが、日本語音韻の推測における確認(3 回)の割合は約 11.1%である反面、韓国語音韻の推測における確認(23 回)の割合は 40.3%である。つまり、日本語音韻の推測より、韓国語音韻の推測のほうに、確認の割合が高かった。また、日本語音韻の推測における確認には日本語情報のみが求められたが、韓国語音韻の推測における確認には韓国語情報と文脈情報が求められた。実際の報告例においても、韓国語音韻が検索された後には、韓国語の心内辞書や文脈を手がかりに確認が行われた例は数多くあるが、日本語音韻が検索された後には確認が行われた例が珍しいほど少ない。よって、韓国語音韻の推測過程では、日本語音韻の推測過程でより、誤りに気づき、修正しやすいと考えられる。

(5) JK ルートの報告数(2 回)より、KJ ルートの報告数(17 回)のほうが圧倒的に多い。実際の報告例においても、「韓国語音韻を先に推測し、その韓国語音韻から日本語音韻を推測したケース」が 15 語、「日本語音韻を先に推測し、その日本語音韻から韓国語音韻を推測したケース」が 2 語である。特に、KJ ルートに用いられたストラテジー(韓国語の漢語のルール化、韓国語音のルール化、韓国語音化)は、韓国語の漢語や漢字音と日本語の漢語や漢字音との単語・音節レベルでの対応関係を探ろうとするものである。よって、韓国語音韻の未知の場合においても、音として既知の韓国語の漢語に頼り、韓国語音韻を通して日本語音韻を推測しようとする傾向の可能性が示唆された。

5. 終わりに

本研究は、Think-aloud 法と Follow-up Interview 法を用い、韓国人日本語学習者である L に日本語テキストを音読してもらい、両言語音韻の未知である日本語の漢語に遭遇した際にどのように日本語の音韻を推測していくかを、個々の例を眺めて探索的・解釈的に調べたケース・スタディーである。

その結果、L は両言語音韻の未知である日本語の漢語について、 先に韓国語音韻を推測し、その韓国語音韻から日本語音韻を推測する過程を経ることが圧倒的に多かった。その韓国語音韻から日本語音韻を推測する過程には、「韓国語の漢語のルール化」、「韓国語音のルール化」、「韓国語音化」など、音として既知の韓国語の漢語に頼り、韓国語音と日本語音の関係を探ろうとするストラテジーが用いられた。韓国語音韻と日本語音韻の対応関係においては、単漢字に一字一字音を与えて覚えるか、個々の音素の対応関係で覚えるより、「韓国語の漢語音＝日本語の漢語音」のように単語ごとに丸覚えするか、「韓国語の漢字音

＝日本語の漢字音」のように音節ごとに丸覚えする傾向が見られた。

Ｌからのデータのみであるため、まだ一般化はできないが、Ｌ以外の５名の対象者からも同じような傾向が見られたので、KL は両言語音韻が未知である書記漢語の音韻推測のために、韓国語音韻が未知の場合においても、まずは未知語にあたる韓国語の漢語を推測し、その韓国語音韻から日本語音韻を推測する傾向がある可能性が示唆された。今後、調査対象者を増やした量的調査を通して、その傾向を検討する必要があるだろう。

【付録Ａ：タスク文と未知語】

現在、学校教育法の第 26 条には、「他の児童の教育にさまたげがあると認める児童がある時は、その保護者に対して、児童の出席停止を命ずることができる」とあり、文部省も必要に応じてこれを適用するようにうながしていた。ところが、小中学校の現場では、義務教育なのに登校させないことに対する慎重論や保護者とのトラブル回避のため、出席停止処分まで下すことは少ながった。そこで、最近、文部省は、暴力や喫煙などの授業妨害及び悪質なイジメといった問題行動を起こす生徒や児童に対して、出席停止などの対応を強化する方針を固め、学校教育法の改正を検討している。一方、一線の教諭からは、そうした生徒の家庭に保護能力が欠けていたらどうするのか、義務教育だからこそ、学校側の責任が重大であるという指摘もある。（網掛け語：両言語の音韻が未知である漢語）

【付録Ｂ：未知語の音韻推測の結果】

	韓国語	日本語		韓国語	日本語		韓国語	日本語
回避	○	○	改正	○	○	喫煙	×：？Yeon	×：？エン
児童	○	○	妨害	○	×：ホウガイ	条	×：？	×：？
命ずる	○	○	停止	○	×：テイジ	検討	×：GeomGye	×：ケン？
文部省	○	○	方針	○	×：ホウチン	教諭	×：GyoRon	×：キョウロン
処分	○	○	生徒	○	×：セイド	義務	○	○：ギム
暴力	○	○	指摘	○	×：ジテキ	慎重	○	×：シンジュウ
適用	○	○	登校	○	×：トウキョウ	○：音韻推測の成功、×：音韻推測の失敗		

【参考文献】

Koda、K(1996) L2 Word recognition research. *Modern Language Journal*、 *80/4*: 450-460

安龍洙(1999)「日本語学習者の漢語の意味の習得における母語の影響について－韓国人学習者と中国人学習者を比較して－」『第二言語習得研究会』第３号、pp.5-18

石井奈保美(2002)「韓国人日本語学習者の漢字（漢字語）学習ストラテジー」平成 14 年度筑波大学大学院地域研究研究科修士論文

カイザー・シュテファン(2000)「非漢字圏日本語学習者のための漢字・語彙教育のシラバスに関する考察」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第 15 号、pp.25-34

海保博之(1990)「外国人の漢字学習の認知心理学的な諸問題」『日本語学』Vol.9、 11 月号、 明治書院、pp.65-72

邱學瑾(2002)「漢字圏・非漢字圏日本語学習者における漢字熟語の処理過程―意味判断課題を用いた形態・音韻処理の検討―」、『教育心理学研究』50、pp.20-28

小林尚美・李友娟(2001)「韓国語母語話者の聴解行動における漢語の役割」『日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.97-102